

## 宮古発

## さんりく元気ラジオ！

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

今週はみやこハーバーラジオの木村悠里さんが「宮古港開港400周年・開港時代行列」について伝えてくれました。宮古港は1615年に「慶長の津波(1611年)」被災地の巡視に訪れた南部利直公によって藩の港と定められ、今年、開港400周年を迎えます。宮古市では「400周年記念事業」として、市の歴史や震災からの復旧・復興の状況などを、広く情報発信するとともに、これまでの全国・全世界からの支援に対する感謝の気持ちを込め、数多くのイベントを予定しています。幕開けは4月24日(金)に行われる「開港時代行列」です。(4/8)

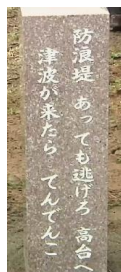
## 宮古発

## 「田老一中の碑」設置



宮古市の田老第一中学校に津波の際の避難を呼びかける石碑が設置されました。万里の長城と言われた巨大防潮堤をも乗り越えた津波の

教訓を後世に伝えるものです。「田老一中の碑」と名付けられた石碑には3年生の佐々木優子さんが考えた「防浪堤あっても逃げる高台へ 津波が来たらてんでんこ」との言葉が記されています。巨大な防潮堤があっても津波が来たらすぐに避難すること。震災を経た田老の子どもたちの思いを石碑は後世に伝えていきます。(4/10 ニュースエコー)



## 釜石発

## 復興予算で意見交換

竹下亘復興大臣と小泉進次郎政務官が釜石市を訪れ、復興予算について沿岸13市町村からなる期成同盟会と意見交換しました。国は今年度で全額国費負担となる集中復興期間を打ち切り、地方に一定の負担を求める方針を示しています。期成同盟会会長の野田釜石市長は「来年度以降も国の全面的支援をお願いしたい」と竹下大臣に要望書を手渡しました。竹下大臣は6月までに具体的な方針を示す考えを明らかにしました。(4/11 ニュース)



## 山田発

## 再開目指しガレキ撤去

山田湾に浮かぶ無人島

「オランダ島」で海水浴場の再開を目指し、地元有志15人がガレキの撤去を行いました。オランダ島は震災により砂浜はガレキで埋まり、売店やトイレなどの施設も被災しました。今後トイレや避難路などを整備し、今年の海水浴シーズンには地元の子供たちを招いて海開きを行いたいとしています。(4/14 ニュースエコー)



## 陸前高田発

## 「ふるさとの山」見学会

陸前高田市の気仙中学校の1・2年生41人が、高台の造成工事のため削られていく、校歌にも登場する「ふるさとの山『愛宕山』」を見学しました。標高が123メートルあった愛宕山は現在50メートルほどにまで削られ、出た土砂は旧市街地のかさ上げに使われています。生徒たちは消えゆく山の頂上に立ち、巨大なダンプや重機が動く姿や復興に向かうまちの姿を見つめていました。(4/15 ニュースエコー)



## 陸前高田発

## さんりく元気ラジオ！

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

今週は陸前高田災害FMの阿部裕美さんが、「高田松原を守る会」の小山芳弘副会長を迎え、会の活動状況や将来的な目標などを伝えてくれました。「高田松原を守る会」は約7000本といわれた松原の保全活動に取り組んできた市民団体です。震災後は壊滅した松原を再生しようと様々な活動をしています。数年後には松原の再生のための植林が行われる計画になっており、守る会では高台に畑を確保して松苗を育てています。松苗の中には、高田松原のDNAを受け継ぐものや、震災後に松原跡地で芽吹いて発見されたものもあるとのことです。(4/15)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中  
詳細はIBC公式サイトから <http://www.abc.co.jp/>  
IBC復興支援室事務局 019-623-3122